



第17回 江戸川区長期計画審議会 議事録

日時:平成14年2月15日(金)午後2時～午後3時30分

会場:江戸川区総合区民ホール「平安」

< 議事内容 >

【松下会長】

こんにちは。それでは第17回江戸川区長期計画審議会をただいまから開会をいたします。

本日の欠席でございますけれども、岩楯委員、斎藤委員、白木委員、横山委員から欠席の届けが出ております。

それでは今回の審議会は第6節「区民の暮らしを力づくよく支えるまちづくり」の基本計画について審議をいたします。本日は立案委員の大村先生と馬木委員さん、北川委員さんにご出席いただいております。

それでは本日の議事は既にお送りしてあります基本計画案について事務局の説明を得まして、その後で委員の皆様のご論議をいただくということで進めてまいりたいと思います。それでは事務局のほう、よろしくお願いします。

【白井副主幹】

それでは本日もよろしくお願い申し上げます。

初めに説明の前に、皆様のお手元に1枚の地図を出させていただきました。図面と言いましょ、ちょっとご覧いただければと思っております。前回のまちづくりの基本構想のときに松井委員さんのほうから国道、都道、区道等について、どれがどうなんだろうというお話がございましたので、それを出させていただきました。

太い線で破線になっておりますのが国道でございます。下から見ますと首都高速湾岸線というのが一番下にございます。真ん中、若干上に行きますと京葉道路というのがございます。その右斜め上に千葉街道と呼ばれているのがございますが、これが国道ということでございます。それから太い実線になっております。例えば環7通りだとか船堀街道だとか柴又街道とか蔵前橋通りというような太い実線になっておりますのが、これが都道でございます。そのほかは若干一部違うところがありますが、区道とあと細かい道の私道とかということになるわけでございます。あとの丸だとか四角だとかついておりますが、これは今日、これからまたお話をさせていただくものに関連してございますので、見ていただければと考えているところでございます。以上でございます。

それでは早速説明に入らせていただきたいと思います。案に沿いまして担当の中倉よりご説明申し上げます。

【中倉長期計画担当】

長期計画担当の中倉でございます。よろしくお願いします。

第6節「区民の暮らしを力づくよく支えるまちづくり」の基本計画案につきましてご説明させていただきます。恐れ入りますが座って説明させていただいてよろしいでしょうか。

失礼いたします。

それでは基本計画案1ページの「施策の背景」をご覧ください。これまで江戸川区は理想のまちづくりを進めてまいりました。その結果、目標としてきた環境が着実に整いつつあります。これからは都市の利便性を生かし、本区の資源や地域の個性を活用して、6地域の身近な生活圏で満足感を持って生活できる、生涯住み続けられる魅力的な江戸川区を区民の参加により築いていくことが大切であると考えております。その実現のために4本の柱を立ててございます。第1に「都市基盤の充実・質の向上」です。第2に「利便性の高い道路、交通、情報ネットワークの整備」です。第3に「地域の魅力を高めるまちづくり」です。第4に「安全で災害に強いまちづくり」です。それでは各柱ごとに基本計画案について説明させていただきます。

3ページをお開きください。まず、「1. 都市基盤の充実・質の向上」についてでございます。ここでは6つの点から考えております。

1点目に「土地利用と市街地整備の方針」を示してございます。1「良好な住宅市街地の形成」として、低層住宅地、一般、中高層と区分し、地区計画や建築協定などの手法により、良好な住環境の保全と育成を図ります。全体として建物高さにおいて調和のとれた美しい町並みの形成に努めます。また、まとまった土地の開発をする場合には、周辺環境と調和のとれた住宅形態などの誘導を図ります。2では地区計画などによるきめ細かいルールづくりを進め、工場と住宅が共存する環境を整えていきます。3の商業地の形成ですが、駅周辺は地域の中心核としてにぎわいのある商業機能などの充実を図ります。近隣型の商業地は地域に密着した商店街として周辺住宅地と調和した市街地の形成を図ります。幹線道路の沿道は住居、商業、流通など、高度利用複合市街地を形成します。4として、農地は可能な限り生産緑地への指定の働きかけを行い、都市農業の保全、継承に努めます。5ですが、葛西トラックターミナルや葛西市場などの流通業務地区においては、東京東部の流通拠点としての環境を維持するなどの整備を図ります。6として、葛西臨海公園駅北側地区を初めとする土地利用調整地区は、立地や機能特性を生かすなど、適切な誘導を図ります。

2点目は「区民発意のまちづくりの推進」でございます。1ですが、木造住宅密集市街地でまちづくり機運の高い地区、土地区画整理による基盤整備が進んでいる地区、都市計画道路事業と一体的なまちづくりを進める必要がある地区、一定の基盤が整っているが効果的な土地利用が図られていない地区について、住民合意を基本として地区計画制度を活用したまちづくりを推進していきます。2は「まちづくり基本条例(仮称)」の検討とともに、その地区らしい個性あるまちづくりを進めます。また、まちづくりを話し合う場の設定、専門家などの派遣、情報ネットワークづくり、学校と連携した取り組みなどを進めます。3は住み続けたい区民の気持ちを大切にした、区民提案による地区計画や建築協定などのルールづくりの推進を進めます。

4ページをお開きください。3点目に「木造密集市街地の改善」でございます。1ですが、防災や居住環境の向上のため、「防災都市づくり推進計画」に基づく地区については密集住宅市街地整備促進事業の実施により、まちづくり事業に関連した地区では地区計画に基づいて、共同化などによる老朽住宅の建てかえ促進を図ります。2の細街路の整備、狭小宅地の改善ですが、建てかえなどの機会をとらえた細街路の拡幅を進め、必要性の高い路線や角敷地など重要箇所は効果的な方策の検討を進めます。また、共同化の促進、まちづくり宅地資金貸付制度による敷地買い増しなど、狭小敷地の改善に努めます。3、「小松川地区防災拠点再開発事業」については、未着工住宅街区の整備など、市街地環境の早期整備を都に要請していきます。

4点目に「良好な市街地環境の創出」でございます。現在施行中の土地区画整理事業については早期完成に努め、地区計画や共同建てかえなどの導入を促進します。2として、面的な基盤整備が未実施や不十分な地区は、区民との協議により整備方針を定め、土地区画整理事業に限定せず、地区計画などにより良好な住環境を進めます。

5点目に「大規模公園予定地の整備」でございます。篠崎公園については整備の見通しを早期に明らかにするよう都へ要請します。なお都市計画道路補助288号線は計画線の見直しを検討します。宇喜田公園については現況の利用形態を十分に考慮した公園整備を都に要請します。2、江戸川緑地は地域の実態に合った整備のあり方の検討をしていきます。

5ページをお開きください。6点目が「地域生活圏と中心核の整備」でございます。このページから7ページ途中までが各地域の計画になっております。これは今までに書かれていることと7ページ以降に書かれていることを地域ごとにまとめてあります。

まず中央地域からとなります。区役所を初めとする行政機関の集積と総合文化センター、中央図書館などの施設や親水公園のある地域として、「情報・文化の発信基地」としての機能を強化していきます。京葉道路の小松川立体、千葉街道、都市計画道路補助286号線、288号線などの整備を進め、「道路利便性の高い住みやすいまち」づくりを進めます。一之江駅周辺は土地区画整理事業による駅前広場や地下駐輪場などを整備し、地域中心核の形成を推進していきます。船堀街道や松江地区の商店街、同潤会通りなどの地域に根ざした商店街の環境充実を進めます。さらに大型店舗の立地する環状7号線、京葉道路などにおいては、沿道型の商業、サービス施設などの土地利用の誘導を行い、「賑わいと魅力ある商店街のまち」づくりを進めます。木造密集市街地、一之江駅西部土地区画整理事業地区、そして住宅と工場などの生産環境が混在する地区、環状7号線、京葉道路、船堀街道の沿道などを「様々な住まいが調和した安全で住みやすいまち」にしていきます。緑道を一層充実し、親水公園とのネットワークにより環境の向上を図り、新中川の河川敷整備を促進するなど、「せせらぎと緑のあるまち」づくりを進めます。

次は小松川・平井地域になります。平井駅周辺は、楽しいにぎわいのある空間づくりと住民の利便性の向上を促進し、地域の歴史資源をつなぎ、回遊性の向上を図り、地域中心核の機能を一層高めて「にぎわいと界限性のあるまち」としていきます。小松川防災再開発事業の早期完成を促進し、東大島駅周辺や防災再開発内の商店街などの振興と、広場、道路などの整備事業を進め、「安全で楽しさのあるまち」としていきます。木造密集市街地については、地区計画などにより安全で快適な住宅地を形成します。街区が整っている地区は平井駅周辺の商業地と調和のとれた住宅地を形成し、そして住工混在地区は地区計画の検討により、住工共存市街地の形成を図ります。テクノタウンなどの工業流通地区は工場の生産環境を維持していきます。これらにより「良好で住みやすい住宅のまち」としていきます。大島・小松川公園周辺は高規格堤防や散策路の整備をし、荒川河川敷は水辺に潤いを持たせ、親しみのある環境整備を進めます。そして水上バス発着所やシンボルツリーのある周辺を水と緑の拠点とするとともに、平井駅からのアプローチ空間を整備します。旧中川は市街地と一体性のある整備を促進し、主要幹線道路の沿道は潤いのある環境づくりを進め、「親水空間に囲まれた水と緑豊かなまち」としていきます。補助120号線は全線完成に向け整備を促進し、また高規格堤防についても地域のまちづくりと一体となった整備を促進します。そして生活道路を整えることにより防災性の高い住宅地を形成し、「災害に強く快適なまち」にしていきます。

6ページをお開きください。葛西地域になります。西葛西駅周辺は地下駐輪場の整備などにより新しくなった駅前広場を中心に地域中心核として、葛西駅周辺は交通ターミナルとしての機能を充実し、地下駐輪場を整備し、地域中心核として整備を推進します。船堀駅周辺は、総合区民ホールを中心とし周辺

環境の向上に努め、地域中心核として充実を図り、葛西臨海公園駅周辺は、海を臨む公園の特徴を最大限生かせるよう対応を進め、また特色ある駅として、魅力ある交通拠点としていきます。そして区の最大の人口が集まり、商業、事務所、事業所の集積が一層進む中で、施設そのものを楽しめ、快適に歩け、自転車やバスで回遊できる楽しい魅力にあふれた地域として整備を進め、「人々が集う魅力と賑わいのあるまち」としていきます。荒川や中川、旧江戸川、新川の水辺空間づくりを進めます。新川は「塩の道」としての歴史的な背景を生かした景観形成を図ります。また宇喜田公園の整備を都に要請し、江戸川緑地については整備のあり方を検討し、「水と緑の身近なまち」としていきます。放射16号線の都県橋整備を促進し、新川西水門付近の新設橋梁整備を都に要請するとともに補助289号線の整備を進め、道路ネットワークの充実を図っていきます。また外環道など首都圏における高速道路ネットワークの早期完成を要請することにより、「交通利便性の高いまち」としていきます。低層住宅地域、中層住宅地域、住工混在市街地は、それぞれに合わせた土地利用などを図り、「快適に住まえるまち」を目指します。医療機関、娯楽、生活支援施設などの立地または立地が予定されている地区、流通、研究などの業務地区及び工場地区を「多様な機能が集まるまち」としていきます。

右側になります。小岩地域ですが、JR小岩駅周辺は南口再開発事業を促進するなど地域中心核としての整備を図り、京成小岩駅周辺は北小岩地区の拠点としての機能を持つ駅前商業地の形成を促進し、京成線は沿線の道路整備や市街地整備に合わせ、立体化を促進します。さらに住宅地にある地域に密着した商店街は近隣商業地として整備に努め、「魅力的な商店のある賑わいのまち」としていきます。小岩北部の住宅地は良好な住環境の確保・向上に努めます。また小岩南部の木造密集市街地は災害に強い住宅地を形成します。地域幹線道路の沿道地区は延焼遮断機能を有した複合市街地の形成を図り、「安心して暮らせる落ち着いたまち」にしていきます。江戸川や新中川はスポーツ機能の充実を図り、自然環境を生かした環境整備を進め、親水緑道や公共の緑を一体的に生かし、水と緑のネットワークを充実し、「緑と水辺空間の豊かなまち」にしていきます。

東部地域ですが、瑞江駅周辺は土地区画整理事業を進め、にぎわいのある商業地として魅力ある地域中心核づくりを進め、地下駐輪場の整備など駅周辺の環境整備を進め、「人々が交流する温かなまち」にしていきます。土地区画整理事業により基盤整備が整った地区は、地区計画により調和のとれた町並みの形成を進め、木造密集市街地は住環境と防災性の向上を図り、「街並みの整う住みよいまち」を目指します。江戸川や旧江戸川沿いにある多様な施設や資源をリンクすることにより、楽しみにあふれた緑豊かな水辺環境の形成を進め、「緑と水辺のあるまち」にします。幹線道路は街路樹などの充実を、篠崎公園予定地は計画の実現を都に要請していきます。続きまして7ページになります。柴又街道の整備を促進し、補助285号線などの都市計画道路を土地区画整理事業などに合わせて整備を進め、「道路交通の整ったまち」にします。また「地域生活に根ざした商店街のあるまち」としていきます。

続きまして鹿骨地域です。ここでは花卉栽培や農地を特徴ある地域資源として、個性あるまちづくりを進めます。篠崎公園は周辺市街地と調和した公園整備を要請します。また区民まつりや花火大会など、人が集まる場所にふさわしい水辺と緑豊かな拠点となる環境づくりを図り、「花と緑と水辺が豊かなまち」としていきます。篠崎駅周辺はゆとりある都市にふさわしい快適空間を創出し、地域中心核として整備し、「都市的な快適空間のあるまち」としていきます。篠崎駅東部及び篠崎駅西部土地区画整理事業を進めるなど、「良好な住宅地」の形成を図っていきます。地域内の商店街は個性や特色を生かし、利便性に役立つ親しみのある地域商業地としての形成を図ります。

右側になります。「2. 利便性の高い道路、交通、情報ネットワークの整備」でございます。ここでは4つの点から書いてございます。

まず1点目として「道路ネットワークの形成」ですが、1として幹線道路は京葉道路の拡幅と放射16号

線都県橋整備及び小松川立体、環状7号線の立体整備を促進します。補助線街路は今後10年間に区施行5路線に新規着手し、おおむね20年を目途に全線完成を目指します。また3環状9放射の早期ネットワーク化のため、外環道、中央環状線及び第二湾岸道路の整備促進を関係機関に要請します。地域内主要道路は優先順位に沿って整備を進め、生活道路は計画的に道路の維持管理を行い、安全性、利便性の向上を図ります。細街路はまちづくりや開発行為に合わせ整備を推進します。2として計画橋梁は都市計画道路整備に合わせ、千葉県を結ぶ橋梁や新川の新設橋梁を整備します。既存の橋梁は上一色中橋、松本橋をかけかえ、鹿本橋、春江橋、瑞江大橋の整備方針を検討します。旧中川の中平井橋は墨田区と共同でかけかえます。新川西水門付近への橋梁新設を都に要請します。3では、自転車歩行者道路や自転車レーンなど、自転車道路ネットワーク化を進めるとともに、堤防上にサイクリングロードの充実を図ります。8ページをお開きください。4として、地域内の交通環境の変化に合わせ、歩道を整備するなど安心して歩ける道路に改修します。見通しの悪い交差点の改善や、片側歩道の両側歩道化などを図ります。また公園、区民施設、文化財などを結ぶ歩行者道路ネットワークの充実を図ります。

次に2点目の「鉄道の整備」ですが、メトロセブンを含む環状公共交通の整備を促進し、京成線の立体化を促進します。

3点目として、「楽しく快適に移動できる交通」でございます。1として、瑞江駅、一之江駅、葛西駅は地下駐輪場の整備を進め、船堀駅、篠崎駅は地下駐輪場の整備を検討します。また、JR小岩駅では再開発などと合わせ、駐輪場整備の可能性を検討します。買い物など駐輪需要への対応については、駐輪需要を発生させる施設の設置者などに対し駐輪場の設置を指導していきます。また、駐輪のルールやマナーについて学ぶ機会を充実し、啓発活動を行い、効果的に放置自転車の撤去を進めます。また、公共レンタサイクルの有効性を検討します。2ですが、駅などのターミナル機能を強化し、乗りかえの利便性向上を図ります。また、ミニバスなどの試験運行、コミュニティバスの検討を行うなど、バス運行空白地区の解消、利用者の実態に合った取り組みを行います。さらにバスロケーションシステムの充実など、利用しやすい環境づくりを要請します。3としまして、鉄道駅ではホームドアの設置、案内版など、だれもが利用しやすいユニバーサルデザインに基づく環境づくりを要請していきます。バス停では上屋やベンチなどの整備を進めます。4ですが、交通の支障となっているボトルネック箇所などの改善、リバーシブルレーンの設置など、交通実態に合った対策を関係機関とともに進めます。また、駅周辺における駐車施設の拡充のために、民間駐車場の積極的な誘致と支援を図ります。国や都などと連携を図り、自動車利用の総量抑制のため、交通需要マネジメントなどに取り組みます。また、商用車などの通勤利用の抑制を図ります。

4点目に「情報ネットワークの整備」ですが、1として、光ケーブルなどの情報インフラの整備を促進してまいります。2として、住民記録や各種事務、施設利用などの情報化のほか、区民が必要とする情報が身近な場所で得られ、区民と区とのコミュニケーションが向上するよう、電子区役所に向けて取り組みます。また、地域などの情報ネットワーク化を図ります。

9ページをお開きください。「3.地域の魅力を高めるまちづくり」でございます。ここでは5点から考えてございます。

第1点目は「水と緑にあふれる都市環境の充実」でございます。1ですが、ベランダや玄関先を花で飾る、「みんなの家に花いっぱい運動(仮称)」を推進し、花と緑があふれるまちづくりを進めます。さらに区民が水と緑を守り、育てる仕組みとして、「緑の里親制度」を導入し、公園や道路に花などを育てる場を提供していきます。2の「緑の回廊の形成」でございますが、大規模公園を区民のオアシスや防災拠点となる緑の核とし、また、身近な公園の緑を充実させ、個性ある公園整備を進めます。また学校につい

て生け垣緑化や屋上緑化を進めます。さらに公園や学校などを緑で結び、緑の回廊を形成します。荒川などの河川敷などには高木を植え、河川敷の並木づくりに努めます。まちが緑で連続し、公共と民間の緑が一体となった環境をつくるため、生け垣緑化や壁面緑化を促進します。また区民農園などの充実を図り、農地の保全に努めてまいります。駅周辺や学校にはシンボル樹を植栽します。グリーンバンク制度を創設し、植樹先を確保いたします。このようにしてみどり率を高めてまいります。3として、荒川河口など、昆虫や魚などが生息しやすい自然環境の復元、再生を図ります。また水辺に親しむ環境学習の場を設け、よりよい水辺づくりを進めます。レガッタなどを楽しむ場や、防災拠点として活用できる水辺空間をつくります。新川や旧中川は親水性のある空間や地域コミュニティの場として整備します。新中川は水景軸と合わせて橋梁空間を整備します。臨海部は自然環境の保全と水辺空間の利用との調和を図ります。荒川、中川、江戸川、旧江戸川については、国や都に対し高規格堤防の整備や耐震補強整備などを要請します。4として、親水公園を生態系に配慮した構造に改修し、自然豊かな「いのちのオアシス」づくりを進め、水辺で学べる環境学習の場や人々の触れ合いの場となる、水と緑のネットワークを形成します。

10ページをお開きください。2点目は「美しい都市景観づくり」でございます。1として、まちの景観を整えるため、地域の特性を生かした地区計画などのきめ細かなルールづくりを進めます。駅周辺や商店街では、違法駐車や放置自転車のないまちの実現に努めます。住宅と工場が共存する地域は、周辺の景観と調和した外観となるように誘導します。葛西臨海公園駅周辺は、臨海公園を核に、海と河川が一体化したゆとりある空間を形成します。2ですが、都市計画道路の整備に合わせ、電線類の地中埋設化を図り、電線のないまちの実現に努めます。3として、情報提供や専門家の派遣などを行い、区民の自主的な取り組みを支援します。

3点目に「住みよい永住できる居住の推進で」です。1ですが、多様な住宅ニーズを把握し区民と区が課題認識を共有するために、『住宅白書』を作成します。2として、専門家の派遣などを充実させ、住まいづくりの相談や情報提供を行います。3ですが、住みかえを円滑に進めるため、中古住宅の評価情報の得られる仕組みを検討します。また良質なストック形成を進めるため、住宅改善資金融資制度などを活用し、リフォーム市場を活性化します。新規供給では街づくり宅地資金貸付制度などの活用で、敷地の拡大など、良好な居住水準へ誘導します。民間賃貸住宅はファミリー層などにもっと使われるよう、需要と供給が一致しやすい仕組みを検討します。分譲マンションは老朽化などの相談体制を充実します。4として、地区計画や建築協定の制度を活用したルールづくりを支援します。中高層住宅地の建築問題解決のため、地域実情に応じた土地利用やルールづくりを検討します。5として、新築時のバリアフリー化を促進し、既存住宅も住宅改善資金融資制度などを活用し、バリアフリーなどの推進を図ります。続きまして11ページをお願いします。災害に強い住宅づくりのため、耐震コンサルタント派遣制度などを活用します。省エネに配慮した住宅を普及するために、事業者や区民に情報を提供していきます。6ですが、身元保証制度とあわせて高齢者向け優良賃貸住宅制度の活用などを図ります。7として、移管される都営住宅は区民ニーズにきめ細かく対応できるような運営を検討します。また、建てかえなどに際し、より質の高い住宅環境などの整備を要請していきます。

4点目が「歩いて楽しめる個性あるまち」でございます。1ですが、ギャラリーやオブジェなどを配置し、楽しめる道空間を提供します。そして健康の道には、歩行距離や消費カロリーなどを表示していきます。2として、商店街などの美観や利便性を向上させ、地域の特色を生かした魅力づくりを進めます。3、地域の風物詩づくりとして、まちのイベント情報などを提供し、伝統的地場産業や地域の年中行事を地域の触れ合いの機会に活用します。

右側になりますが、5点目が「安心して生活できるまちづくり」でございます。1として、交差点の改善や

歩車道の分離、路肩のカラー化など、安全対策を進めていきます。また実態調査をして、通過車両の進入を防ぐための方策を講じていきます。2として、街路照明など、町会などの意見をもとに改善を図ります。また街路樹などで見通しの悪い箇所の点検や改善をしていきます。3として、段差や電柱など、通行支障箇所の改善を図ります。

12ページをお開きください。「4. 安全で災害に強いまちづくり」でございます。

1点目は「防災まちづくり」です。1として、密集住宅市街地整備促進事業の実施により防災機能を向上させ、新築時の不燃化、耐震構造化、既存建物の耐震補強などを図ります。橋梁については安全性を向上させるため、計画的な改修を行います。さらに電線類の地中化、老朽管の入れかえなど、災害に強いライフライン整備をします。2ですが、道路、公園の整備などにより、避難路や延焼防止空間を確保します。学校などを避難所として機能強化し、細街路の拡幅を推進します。4として、公園などに雨水貯留施設を整備し、民間施設でも整備を促進します。雨水を地下に戻すため、歩道など透水性舗装や保水性舗装を進めてまいります。5ですが、都市のヒートアイランド現象を緩和するため緑地や農地の保全に努め、屋上緑化などの促進と道路の透水性舗装を進めます。

2点目が「防災体制の充実」でございます。1として、職員の非常参集体制を強化し、災害対策本部を迅速に設置します。またマニュアルの整備とともに実践的な防災訓練を通じて、区の災害対応力を高めます。2として、応急対策やパニック防止のため防災行政無線などを活用し、情報を効果的に収集し、正確な情報を迅速に区民に提供できる体制を確立します。3ですが、他の団体から円滑に連携が得られるよう連携を強化し、防災上必要な協定の締結を進めます。また防災時のボランティア活動が効果的に実施されるよう、環境整備に努めます。4として、地区ごとの被害想定、地域ごとの備蓄物資の拠点配置、備蓄物資の充実を図ります。また防災マップなどを充実してまいります。医薬品も備蓄体制を整備し、救護体制の確立を図り、また適切な生活ができるよう、避難所の体制や心のケアの実施体制をつくります。

13ページをお願いいたします。3点目として「みんなで守るまちづくり」です。「自らの生命は自らが守る」という原則のもと、広報や防災訓練などを通じて防災意識の啓発や防災知識の向上を図ってまいります。また初期消化や救助活動が的確に行えるよう、自主防災組織やボランティア、NPOの活動を支援します。2として、災害時に近隣の助け合い活動が活発に行われるよう支援し、防災コミュニティ意識を高めていきます。またボランティア団体が円滑に活動できる仕組みをつくり、要救護者などの災害弱者を支援できる体制づくりを進めます。3として、学校教育や生涯学習などのあらゆる機会を通じて防災教育や防災訓練を充実し、防災意識の高揚を図ります。

以上でございます。

【松下会長】

まちづくりについてかなり広範な説明をいただきまして、どこから入っていいかちょっとわかりにくいところがあるんですけれども、非常に大事な部門でもございますので、皆様方からご意見をいただければと思います。何か提案あるいはご意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。

はい、小暮委員。

【小暮委員】

今、たくさんの項目についてお話を聞いたんですけれども、何だかあんまり多くて頭に残らないという感じなんです。私はせっかく江戸川区には独特なものがあるので、江戸川区独自のまちづくりを考えていただきたいという1つの提案です。というのは、今年の4月1日から葛西地区に臨海病院がオープン

します。この臨海病院は防災拠点として協力しますという、きちんとした協力を約束しております。そのために江戸川区はますますこれから人口が増えることですし、道路は渋滞すると思います。その意味で救急体制としまして、私は昔から思っていた案なんですけれども、幸い江戸川区には南北に大きな川が4つほどあります。江戸川、中川、新中川初めまして4つあるんですけれども、これを要するに水上救急隊というか、江戸川区の場合はベニスにあるような、ああいうものを利用できる土地柄になっております。

ですから道路を走るのには、非常に救急車や何かも渋滞して困っているのは皆さん目の当たりに見ていると思いますので、江戸川の場合は、江戸川区独自の救急体制としまして河川を使った、しかもこれらが臨海病院につながるような救急体制を是非考えていただきたいと。これは江戸川区ならではの体制だと思いますし、恐らくもし錦糸町、お茶の水あるいは浦安のほうに行く場合には、道路はどこも今、渋滞で、救急車は非常に困っております。そういう意味では江戸川区は競艇場もありますし、競艇場と協力してうまく河川を利用すれば、救急体制は非常に素晴らしいものができると思います。これはよその区ではちょっとまねできないと思います。これは夢のある救急体制として、ベニスに勝るような救急体制が、しかも水上を利用してできるとなれば、こんないいことはないと思いますので、是非ご検討していただければありがたいと。これは提案です。よろしくお願いいたします。

【松下会長】

ほかにございませんか。

はい、吉越委員。

【吉越委員】

私も幾つか提案になります。よく議会なんかで住居表示の問題が出るわけですが、江戸川区もあとわずかになっているわけなんですけれども、ほかから来て、非常にそのまちがわかりやすいということは、そのまち自体を優しく感じるわけだから、表示板、今は各家庭のうちの角に小さな表示板があるんですけども、これが何か法律で決まっているのかどうかわかりませんけれども、江戸川区独特の表示板方式で、まちのどこへ行って、どういうふうな見方をすると、まちの町名が判明するかというような表示板。特に江戸川なんかは交差点なんかでよく信号にその町名がついてよくわかるほうなんですけど、もっとわかりやすいまちづくりができないだろうかということが1つ。もしこういう事情でだということがあったら説明をお願いしたいと思います。

それから美しいまち、きれいなまちというふうにいるいろいろ書かれているわけですが、放置自転車や違法駐車をさせない。これはいろいろ口では言うけれども行うのは大変難しいと。これはほかのところでも言おうとは思っているんですが、例えばこの区民ホールをつくるときに、船堀の駅前にタクシー乗り場があったわけです。それを廃止して、あそこに区民ホールと一体化した駅前のきれいな広場をつくるという説明を僕は受けたわけ。しかしでき上がってみると、自転車置き場になっちゃっている。自転車置き場になっているんですけども、それを一向に片そうとしない。これは一体何のためにあそこに広場をつくったのかと。意味が全くないと。だからこの駅周辺には、こことこだけはやっぱりまちの美観上、絶対に違法駐車、駐輪をなくせとは思いませんけれども、こことこだけは、置かせたらこのまちのイメージが崩れるというところをきちんと決めてまちの整備を進めることがいいのではないだろうかということを、どういうふうにこの文書に織り込むか、ひとつ考え方があったら教えてください。

それからこの中に「緑の里親制度」にこれから取り組んでいく。これは非常にいいことだと私は思っているんですけども、やっぱりこれを長く続けてきれいなまちづくりするには、私のふるさとでは「花いっば

い運動」というのをやっているわけです。まちの隅々まで花で埋めるという行政の指導に基づいて、花の種類もそろえながらあまりバラバラにならないような指導をしているわけですが、どうしてもこういうところへ行くと、それぞれ自分の受け持ち区域があっても……。何かこれはいいことか悪いことかわかりません。しかし人間の社会は多少競争意識を持たないとなかなか長く維持できない、よりきれいにしようという意識が発生しないということがあるので、この里親制度に取り組むと同時に、継続性のためあるいは美観を守る上で、競争意識を持ったコンテストにするのか、どういうふうなシステムがいいか、ちょっと僕にはわかりませんが、そういう取り組みを「緑の里親制度」の中に取り込むべきではないかということをお願いしておきたいと思います。

それから実践的防災訓練をこれからやると書いてあるんですが、それがどういうことかイメージがちょっと僕にはわからないんです。今、江戸川の河川敷で自衛隊も参加するような広域防災訓練が行われているのはよく承知しているし、これはこれで全体的な面でどう対応するかということは大変重要だけれども、毎日の生活の中でイメージしていると、地震があった災害が発生したというときに、隣近所二、三十軒の中で、どこに連絡をしていいのか、あの人は火を消す役目だけれども、こっちのほうはどこかへ連絡する役目だとかと、その町会、自治会の中で、あるいは町会、自治会の班の単位で全然そういうことの訓練がされていないから、そういうことが起こったときには、一般の人は全く何をしたらいいかわからないような状況だと私は思います。

これをしないと実践的な訓練とは私は思えないような気がするんですが、この実践的な取り組みとはどういう内容をイメージするかということについてお聞きをしておきたいというふうに。言うところと切りがないのでやめます。

【松下会長】

はい、経営企画部長。

【山崎経営企画部長】

1点目の住居表示とかかわっているまちのわかりやすさですけれども、私が前職だったものですから。住居表示に関する法律というのがございまして、法律に基づいて全国一律でどういうふうな形でやりなさいというルールが決まっています、表示につきましても横の板と各家庭に送る小版、これも全部形が決まっています。

それはそれといたしまして、このわかりやすいまちというのは大変大切なことでございますし、私どもはいろいろな形で学校の上に学校の名前をつけたり、施設の名前をわかりやすくしたり、道路の交差点もそうですけれども、そういう形で今後とも工夫をしてわかりやすいまちを目指していきたいと思っております。

【松下会長】

はい、副主幹。

【白井副主幹】

2点目につきましては土木のほうからお答えさせていただきますが、3点目の「緑の里親制度」の導入でございます。これは今、委員からお話しいただきましたけれども、進めていきたいと思っております。もう一つ、この里親制度と同時に、今、公共で預かっている場を、街路樹なんかも皆さんに提供していくというのを書かせていただいておりますが、それをどう広めていくか継続していくかというのは、ひとつ、

今、委員がおっしゃられたようなこともやはり考えていく必要があるかなと思います。例えばモデル地区をつくってみるということも、江戸川区全体よりも、まずここでやるということも必要だと思いますし、そのようなコンテストをやるというのも1つの方策だなということだと思っておりますので、これからそのようなことも含めて参考にさせていただきながら考えていきたいと思っております。

それから4番の「実践的な防災訓練」というのは、まさに各地で団地を初め町会などでいろいろおやりになっておりますが、今、委員がおっしゃったようにコミュニティのところでいろいろお話しさせていただきましたが、町会全体の中で課題がいろいろ出てきている。そこには防災の話だとか環境だとか、いろいろなことがあるわけですが、それが、まず、単位としてはクラスターという言葉が部会では相当出ました。クラスターというのはブドウの房を意味しまして、今、吉越委員がおっしゃったような、まさに小さな単位、これが1つのまとまりになっていく。それが全部つながっていったブドウの房ができてくるというようなコミュニティでございます。ですから実践的な訓練というのは、今、委員がおっしゃったようなことが当然含まれているというふうに、これは考えているところでございます。

【松下会長】

はい、土木部長。

【倉嶋土木部長】

船堀駅前の広場の違法駐車、駐輪問題についてでございますけれども、委員さんお話しのとおり、私もいろいろ困っているところではございます。もちろん住民の方々とともに意識啓発あるいはキャンペーン、定期的な撤去というようなことを行っているわけではございますけれども、抜本的な対策には至っていないと思っております。船堀駅だけではございません。例えば葛西駅あるいは篠崎駅等々ございます。これらにつきましては長期計画を進める中で、やはり少なくとも地下駐輪場ぐらいは必要であろうと思っているところでございます。

【松下会長】

ほかにいらっしゃいますか。

はい、竹内委員。

【竹内委員】

私のほうから3点ほど質問と意見を言わせていただきます。

1点目は国のほうでも都市再生ということで大きなテーマがありまして、東京都のほうでも50年先を見越して東京の新しい都市づくりビジョンというんですか、東京の都市再生を目指そうということで概要が、今、ほぼまとまりつつあると思うんです。この辺の部分をもう少し加味しながら、もう少し膨らませていったほうがいいんじゃないかなと私は思うんです。例えばこれは東京都のほうの都市再生プランの中には一部入っていましたけれども、東京湾の、じゃあウォーターフロント開発をどこにするんだという議論があります。例えば江戸川区の場合はかぶさる、ウォーターフロントの一部にかかってくるわけですから、その辺の部分の取り扱いといたしますか、もう少し膨らませてこの中に入れていったほうがいいんじゃないかなと私は思っているんです。それが1点目と。

2点目は、国土交通省のほうで、老朽化をした、今後老朽化をするマンションの円滑な建て直しといたしますか建てかえができるような法案が、たしか、今、国会で提出されると思うんですけれども、その辺の、要するに江戸川区の場合、ちょっと今日お聞きしましたら、約3万1,000戸ほど集合住宅にお住ま

いの方がいらっちゃって、比率で言うと約10%、人口比ですと12%ぐらいの方々がお住まいなんです。ですから集合住宅という部分の取り扱いをもう少し多く入れたほうがいいんじゃないかなと思うんです。特に例えば防災云々とここに出てきますけれども、じゃあ高層住宅の防災なんかはどうするんだとか、その辺の部分も含めてもう少し集合住宅にお住まいの方々の部分を膨らませてこの中に入れていったほうがいいんじゃないかなと思っています。

3点目はバリアフリー化ということです。この中でも住宅のバリアフリーは出てきましたけれども、例えば歩道だとか、あと公共施設の関係その辺を、1番の「都市基盤の充実・質の向上」の中にもっときめ細かなバリアフリーの推進というか、そういうことを入れるべきじゃないかなと私は思っています。ですからその辺のこと、これから当然高齢化社会になっていきますけれども、高齢者とか子供だとか障害者だとか、それにやっぱり優しいまちづくりという、ですからバリアフリーということをもっときめ細かく入れたほうがいいんじゃないかなと私は思っているんです。

もし意見といたしますかご意見があったら聞かせていただきたいと思います。以上3点です。

【松下会長】

はい、副主幹。

【白井副主幹】

まず1点目なんですけれども、都市再生の視点からでございます。私どもといたしましては、後で先生もお話しただけのかもしれませんが、そのような視点を持って書いてきてというか、計画づくりを進めてきたと考えておりますが、今、ご意見をいただいておりますので、今後とも検討させていただきたいと思っております。

2点目につきましても、老朽化したマンション等と高層住宅などにつきましては、これは福祉部会でも相当話が出ました。例えばマンションは車いすとかベッドをエレベーターで運べるようなものじゃなきゃいけないんじゃないかというようなことで、スーパーリフォームに合わせてというようなことも書かせていただいているんですが、そのあたりももう一度ちょっと検討、見させていただきたいと思っております。

3点目のバリアフリー化につきましては、これは至るところで駅のバリアフリー化とか、福祉のところでもユニバーサルデザイン、移動しやすいまちづくりというようなことで、ここだけではなく全体で触れてきていると思っていますので、バリアフリーについては、十分書いたなという思いがございます。

先生何かございますか。

【松下会長】

はい、大村先生。

【大村立案委員】

若干じゃあ都市再生絡みの話について、今、国も都も、これからの重要な施策としてということで、江戸川区のまちづくりの分科会のほうでも、明示的に都市再生という形では出してはいないんですけれども、よく考えてみますと今までやってきた江戸川区のいい都市計画の、あるいは都市づくりのところは継承しながらという形で。それから時代環境的に見ますと、もう少し長期的に見ますと、やっぱり人口の伸びはこれからそれほど大きくはならないとか、世帯も増えていく時代ではない。そうすると今までつくられてきたものをもっとうまくゆとりを持って使っていくとか、ウォーターフロントに関しても、多分かつての時代ですともっと新しい土地利用に転換していこうとかという時代だったんですけれども、むしろ逆に自然

環境を取り戻していくとか、ゆとりある空間を取り戻していくというような、そういう意味合いの都市再生というのも十分僕はあり得るし、ほかの方もおっしゃっていたような江戸川区らしさというのはこういう水とか緑の環境がまだほかの区に比べては豊かなんですから、それを生かした都市再生というのは十分僕はあり得ると思いますので、ご意見をうまく今後のとりまとめに反映できればと思っております。

【松下会長】

はい、瀬端委員。

【瀬端委員】

非常に具体的な問題ですので、ちょっとページを追っていっぱいあるんですけども、質問と意見とお願いしたいと思うんです。

1つは長期計画、今回まちづくりということで、用語の解説の中にもありますけれども、「江戸川区街づくり基本プラン」というのを、江戸川区は何年前ですか、2年ぐらいたちましたか。つい最近、都市マスタープランと言っていましたけれども、基本プランを立てているわけです。大体この「街づくり基本プラン」がベースになって今回の長期計画のまちづくりの案が出されているのかなと思うんですけども、一応基本的な今回の長計と、都市マスタープラン、この基本プランとの関係、これは長期的に見てどうなのかということをひとつ確認したいということです。

もう一つはたしか3ページなんですけれども、右側のページに「土地利用調整地区」ということで「葛西臨海公園北側地区をはじめ、今後大規模な都市的機能の配置が考えられる地区」という表記がありまして、これは恐らくロッテワールドの予定地のことを指しているのかなと思われるんです。「大規模な都市的機能の配置が考えられる地区」というのがほかにあるのかどうか分からないんですけども、この江戸川区のまちづくりの長期計画の中で、ロッテワールド予定地というのがどういう見通しになっているのかとか、ロッテワールドそのものがどういう段階と見通しになっているのかというのはこの中には明記されてないんですが、この「土地利用調整地区」ということの中に「ロッテ」という言葉はありませんけれども、区民みんなが知っていることで、ただまあディズニーランドに続いてディズニーシーができて、ああいう施設としてはひとり勝ちというようなことを言われているわけです。そういう中で今の経済状況といろいろな環境の中でこれがどういうふうになっていくのか。私どもはこれを促進してほしいという立場じゃなくて、そこに住んでいる住民の方々にしてみると、住み続けていくためにはやっぱりいろいろな意味での環境悪化が心配されるという声が強かったものですから、これは慎重にという態度だったんですけども、現状でこの見通しはどうなっているかと。ちょっと長期計画の中での位置づけと、その見通しをお聞きしておきたいということが2つ目です。

それから4ページ。ここでは小松川防災拠点再開発事業と区画整理などの問題が示されているわけです。大体、区画整理の場合には都施行、区施行、組合施行とあるわけです。特に私たちがちょっと問題を感じているのは東京都のこういった施行している事業といえますか、小松川防災拠点の事業にしても、京葉道路の拡幅工事の問題とかいろいろ問題があるんです。非常に完成年度がずっとおくれおくれになってきていると。平成12年度完成だった予定が、今は17年度完成ということになっています。17年度完成なんですけれども、ここに書いている未着工街区というのがあって、その中で特に都営住宅の用地というのは2つの街区があるんです。これは一体いつ都営住宅が建つのか、ちょっと見通しがわからないと。一応民間デベロッパーに開発を委ねる分譲住宅の街区はいずれできていくんだろうと思うんですけども、その見通しはどうなっているのかということ。それから区画整理事業も大分、東京都の財政状況、財政事情などで計画がおくらされているという問題がありまして、この長期計画の中での区画

整理を計画している以上は、そこにお住まいの住民の方々にとってみればやっぱりできるだけ早く完成してほしい、計画どおり完成してほしいということがあるものですから、そういった見通しです。これはやっぱり東京都に要請していくということしかないと思うんですけれども、長期計画でまちづくりをうたう以上は、そういった見通しを明らかにしていく必要があるんじゃないかと。

それから私は平井に住んでいるんですが、120号線の問題も残された問題というか、5ページと12ページに補助120号線問題というのがありますけれども、用地の買収はかなり進んでいるというお話を聞いているんですが虫食い状態で、手をつけた以上はやっぱり早く完成してほしいという当然住民の方々としての思いがあるわけです。一応この計画の中では「全線完成を目指し整備を促進」するということになっているわけなんですけれども、これも財政の事情とか用地の買収が一体いつまでに終わって、工事がいつまでに完成するのか、そういう見通しが長期計画の中でどういうふうにもっていったらいいのかということは住民としても非常に気になる場所だなと思います。

次は7ページの右側に「3環状9放射」を要請すると。区外の高規格幹線道路ということで、区内の生活幹線道路といいますか、幹線道路をつくると同時に区内道路交通網の機能効率を高めるということと、区外の3環状9放射の早期完成と整備の促進を関係機関に要請していくということなんですけれども、これはちょっといろいろ意見が分かれるところというか、私自身としては関係機関に要請していいのかなという思いがあります。

1つは江戸川区がその資料をお持ちかどうか分からないんですけれども、3環状9放射を全部完成させるために、総事業費というお金が幾らぐらいかかるかということこそ是非、私もちょっと調べていないんですけれども、わかれば教えていただきたいなと思っています。そのことは、今、言うまでもないわけなんですけれども、これまで国と地方の借金、国債や地方債、これが両方合わせて今、正確には666兆でしたか。相当な規模になっていて、そういう借金財政を何とかしてほしいと、何とかしなきゃならないということで小泉内閣も誕生したかなという背景があるかなと思うんです。これは一体幾らぐらいかかるのか。これまでのいろんな大型の公共事業のツケというか、そういうことがやっぱり国の財政とか国の将来とか、そういうことにいろいろ影響を与えてきている面が非常にあるんじゃないかと。確かに3環状9放射をつくって道路交通渋滞をなくして生産活動というんですか、効率を高めるということのようなんですけれども、その前にこんなにやったらほんとうにパンクしちゃう。今でもパンクしちゃっているのに、パンクがどういうふうになっちゃうのかと。国の財政や、将来、国債はどんどん格付が下がったとか、30兆円の枠内を守ったと言ってるんだけれども隠れ借金とかいろいろあります。道路特定財源も一般財源化するかどうかというのを取りざたされている面もあるし。

そういうのを考えると、ほんとうにお金はどうなっちゃうのか。ほんとうに渋滞解消というんだったら、道路をつくるということも、それはどうしても必要なところもあるかもしれないけれども、ここでうたわれているTDMですか、ああいう交通需要マネジメントとか交通抑制策とか、そういうことをもっと重点に力を入れていくというような方向が、環境を守るためにも必要な方向性じゃないのかというふうなことを実感として私は感じています。ですからこれで3環状9放射はどうしても必要だということで、第二湾岸とかいろいろまたつくるとことはほんとうに国の将来としてどうなんだろうかという疑問が非常に強いものですから、ここにあって書いてあるので、このことはやっぱりお尋ねして確認をしておきたいなということなんです。

あとは具体的な提案というか、意見もあるんですけれども、8ページはさっき竹内さんからもありましたし、課長のお話もありまして、右側にある「誰もが快適に移動できるユニバーサルデザインの推進」と。交通バリアフリーということになるんですけれども、今までいろいろユニバーサルデザインを盛んに強調されてきましたのでよくわかるしいいと思うんです。ただ具体的な問題としては、今、私が必要だと思う

のは、すべての駅にエレベーター。あるいは上りのエスカレーターはあるけれども、下りのエスカレーターはない駅とか、そういうバリアフリー化で先行した駅と、後からそういうものがついた駅とではやっぱりいろいろ格差があります。例えば東大島駅、小松川のほうの駅は上りのエスカレーターはありますが下りがないとか、後からついた平井駅は上下のエスカレーターがあるわけです。そうすると障害者の方なんかは、下りのエスカレーターを是非つけていただけないのかという声があります。ユニバーサルデザインでだれもが移動しやすい、だれにとっても優しいということになると、バリアフリーなんかはそういったおくらしている面です。そういう問題をやっぱり具体的にこういう長期計画なんかでは触れて整えていくというようなことが必要なと思います。

これは書くまでもないですけれども、車いすで移動しやすい低床バスをできるだけ早く促進していく問題とか、議会でも言ったことがあるんですけれども、オストメイトの方、人工肛門をご利用の方なんか移動しやすいトイレの設置とか、そういうようなこともやっぱり、江戸川区はオストメイトは大分先進区ということも聞いてますので、これを一層促進するような方向性も大事なことじゃないかなと思っています。

10ページは電線・電柱の地下埋設について。これはどんどん促進されていると思うんですけれども、地下埋設に当たっての国や都の補助の基準があるのかどうか、ちょっと私うっかりしたんですけれども確認させていただきたいなと。大体まちづくりの大きな事業をやっていくには、あわせて電線、電柱の地中化というのはやられていると思うんですけれども、できないところがあるとか、そういうことも何点があるので、これを促進する意味で基準などがどうなっているのかなというふうなことを確認したいと思います。

それと右側に「建築紛争解決のための支援」ということがあるわけです。先ほどちょっと話が出た都市再生とか、都市づくりビジョンというのを今、国や都で盛んに新しいまちづくりの方向性がうたわれているんですけれども、私はむしろ逆に、また新たに容積率の緩和とか日影の規制の緩和とかそういうことが起こって、新たな建築紛争の火種になるというような心配がないかどうかというのが1点あるわけです。これは紛争解決の手引きをいろいろ提供して、そのために努力するということがうたわれていますのでいいんですけれども、今後のまちづくりの中で、昔起こった地上げみたいなことにならないようにしていくことが大事だなと思っています。

済みません、最後に11ページなんですけれども「公営住宅への対応」。特に都営住宅が区に移管されるということで、江戸川区の場合には都営住宅の移管を受けるということが比較的おくれたと思うんですけれども、新年度3つの都営住宅の移管を受けると。私も34の都営住宅が区に移管される対象になっていると伺っているんですけれども、その34都営住宅の今後の活用の見通しといたしますか、区としてはどういった方向でこの長期計画の中では活用していこうとしているのか。シルバーケアとかファミリー向けとか、いろいろな住宅の活用の仕方、この中にも敷地の有効活用とかいうこともうたわれていますけれども、これもちょっと具体的にどういうふうにするのかなと。

それから都営住宅で私が、今、一番気になっているのは中層、4階とか5階建ての都営住宅へのエレベーターの設置です。今、どんどんやられてはいるんですけれども、非常にテンポが遅いというか、いろんなところにお金がかかるわけだけれども、高齢化というか高齢化している住宅などで、非常に人道的な問題にもなっているなということを痛感しているんです。そういう意味で、こういったスーパーリフォームとあわせて、そういった都営住宅へのエレベータを前倒しで、できるだけ速いテンポでつけていくとか、そういうことも1つの大きなバリアフリーの課題ではないかなと思っています。

防災対策の問題もありますけれども、ページを追ってたくさん言いまして申しわけないんですが、聞かせていただける問題についてはお聞かせいただきたいと思います。

【松下会長】

たくさんご質問がありますので順次お願いしたいんですけども、瀬端委員にちょっと申し上げますが、例えば国レベルの政策判断の問題とか、そういう問題を論議しますとこれは幾ら時間があっても足りませんし、ここは江戸川区の20年後の長期構想をどうしようかということですから、やはりそういうことを一応基本にして議論を進めていかないと。寄り道してしまいますと、幾ら時間があってもちょっとあれなものですから、ですからそういう視点でひとつ順次お答えをお願いしたいと思います。

【松下会長】

はい、副主幹。

【白井副主幹】

それでは私から答えられることは私から答えさせていただきます。

まず「街づくり基本プラン」と、この長期計画とのことでございます。これは実は基本構想の審議をいただいたときにも小泉委員からご質問いただいたと覚えております。これは平成11年に「街づくり基本プラン」をつくりました。「街づくり基本プラン」というのは長期構想というのをもともとは受けて、その総合的な指針を出すというのが「街づくり基本プラン」でございます。しかし、これは11年につくったものでございますので、今回の基本構想、基本計画につきましては考え方が違ってないものにつきましては、これを土台といたしまして、ここに構想も計画もつくらせていただいております。それを土台にして、下敷きにしてつくらせていただいております。ただ、それから2年たっておりますので、情報の話だとか自転車や徒歩への転換だとか、より「いのちのオアシス」というような自然回帰の話、今、先生からもちょっとお話がございましたけれども、そのようなことはもっと明確にここで出させていただいていると考えていただければと思っております。

あと具体的なことにつきましては、答えられることを主管部のほうからお答えさせていただきます。

【松下会長】

はい、都市開発部長。

【浅川都市開発部長】

それでは簡単にお答えさせていただきます。

まずロッテの話ですが、これは計画がまだ具体的に実行の段階に至っていないということでありまして、状況としては企画としての魅力アップですとか、財政的な意味での事業性ですとか、こういったところをいろいろ検討しているという状況でございます。区としてはこれをしばらくの間は推移を見守るというようなことで臨んでいきたいと。いずれにしても区としては魅力のあるものでありますから、実現を期待しているということでございます。

「小松川防災拠点」、「区画整理事業」、「補助120号線」というようなことで、いわゆる都、国等の施行について事業がおくれてどうだというようなお話をいただいたわけですが、この事業を促進するという意味では、これは変わらない姿勢で臨んでいきたいということですが、努力する中でもおくれるという実態はございます。そのことは区も一緒になって道を開きながら事業をやりやすいようにと、こういうことで臨んでいるわけですし、東京都全体の財政が厳しい中で、区画整理事業も都施行として区の中へかなり踏み込んでくれているのは、そういう都と区との一体性の中で、ほかの地域では撤退しても江戸川の中ではやると。こういうこともありますので、その辺を是非お酌み取りいただければありがたいと思

っています。

「3環状9放射」の関係では、3環状については、特にこのことを実行すると江戸川区の環境は大いに改善をするという立場でいます。これは公共投資云々という話がありますが、この部分につきましては必要な公共投資であり、江戸川区の環境改善にとっては欠くことのできないものだ。という認識の中で長期計画にも入れさせていただいていると考えています。それからソフト対策をあわせて行うことは当然だという認識で記入をさせていただいています。

バリアフリー等の関係についてはおっしゃるとおりでございます、このことについては力を入れて、いろんな分野がありますが取り組んでまいりたいということでございます。

電線類の地中化については、また別途お話しをさせていただきます。

建築紛争等と東京ビジョンの関係でどうだということですが、東京ビジョンについては規制緩和でいわゆる再開発等を動きやすくするという部分もございまして、先ほど大村先生がおっしゃったような意味で住宅地等については環境を整えていくということもひとつ東京ビジョンであります。江戸川ビジョンもその部分に乗っかっていきたいと思ひますし、そのところに力を入れたいという意味で、東京ビジョンの特に江戸川区バージョンのところを詳細に書いていくと今回の長期計画になってくるんだとお考えいただきたいと思ひます。

あとはまた別にそれぞれの担当からお話し申し上げます。

【松下会長】

はい。住宅課長。

【裏田住宅課長】

では公営住宅の関係についてです。34団地あるものについての今後の活用の見通しということですが、今回6月を目途に3団地、初めて移管を受けていくということで、これを手始めにということではあるんですが、今後の移管については、年度を決めてそれまでにどれだけやるとかそういうことではなくて、それぞれの団地の実情ですとか活用の可能性等を見きわめながら慎重に進めていきたいというスタンスであります。移管の受け方につきましては今あるものをそのまま受けていくようなやり方と、老朽化しているために建てかえと同時に受けていくという、大きく2つあるわけです。一番大きな活用の可能性というのは後者のやり方というのが一番ダイナミックな活用の新しいあり方というのを期待できるわけです。それ以外につきましては、またそれぞれの個別の団地によって事情が異なりますし、施設事情等も含めまして考えていかなければならないことですので、今、一概にこういう見通しであるということはちょっと難しいところです。

エレベーターの設置についてです。確かに高齢化した方あるいは体が不自由になられた方等がいらっしゃるしまして、エレベーターの要望というのは非常に強いところなんですけれども、エレベーターをつけることによってまた共益費がかかってくると、それほど望んでいない人については賛成できないというようなこともありまして、皆さんの合意がまず第一であると思っております。その上で、例えばちょうど老朽化も進んでいるので大規模団地について建てかえをしていこうとか、あるいはスーパーリフォームをしていこうというようなこともありますので、そういったことについては区としても早期に実現するように都に働きかけていきたいと考えております。

【松下会長】

はい、計画課長。

【高井計画課長】

電線の地中化のほうでございます。こちらはご指摘のとおり補助制度はございます。この地中化のほうですけども、従来まではいわゆる東京電力であるとかNTTが単独で自分たちで出費をして地下にケーブルを埋設してやってきておったわけですけども、実は平成7年ごろから、それではなかなか地中化が進まないということで、道路管理者がいわゆるケーブルを入れるための管を敷設する、出費をしていくというようなことで、この延長を延ばしていこうというような制度に変わってきております。そのための経費に対して補助が出るというようなことになってまいります。補助率はおおむね2分の1になってまいります。これは国のほうの予算範囲の中での2分の1ということになりますので、全体の工事費の半分が丸々出るということにはなかなかならない場合がございます。

それからこの地中化ですが、私ども都市計画道路であるとか区画整理事業であるとか、いわゆる財源がもともと担保できているものは、この事業に合わせながら整備をしてきておりますので、ある意味では補助金がやむを得ず取れなくても、財源がある程度確保ができた中で事業が進められるというようなことでございます。

この地中化でございますけれども、先ほどお話があったとおり都市再生の中の、ある意味では目玉事業にもなっておりますので、その辺をよくにらみながら事業にはとりかかっていきたいと考えております。

【松下会長】

はい、瀬端委員。

【瀬端委員】

わかりました、交通のほうは当然そういう方向を含んでいらっしゃるということを理解したいと思います。やっぱりちょっと先行したところと、今度、小岩駅ですか、京成とか、そういうところにエレベーター、エスカレーターとか設置を予定されているというふうに、今、説明を伺いましたけれども、だんだんよくなるなという感じもしてまして、最初にやったところがちょっと取り残されるというような傾向もあるものですから、その辺も是非長期計画の中では踏まえていただく必要があるかなと思っています。

それから会長のおっしゃるとおりで、国の政策の問題で云々してもここはちょっと場が違いますから、私もあれだったかもわからないんですけども、ただまあ、そのことが明記されてましたので、そういう大型のことをやって、その一方で財政がないということでいろいろ地元の区画整理とか、120号線なんかもそうなんですけれどもおくられているんですね、財政難といって。まあ財政が確かに厳しいんでしょうけれども、大きな工事のほうはどんどん進めていこうということがあるようですから、その食い違いというか発想の転換というかな、そこがやっぱり私は必要じゃないかということを言いたかったわけなんです。区の長期計画としてはやはり身近なまちづくり、住民の納得合意というお話もありましたけれども、ほんとうにそこに住む住民が主人公のまちづくりということを是非貫いていっていただきたいということを言っておきたいと思います。ありがとうございました。

【松下会長】

ほかにございませんか。

はい、小泉委員。

【小泉委員】

大変、今、ご説明を聞きまして、あらゆる20年後を目指したまちづくりの理想像を考えられてつくられているなど高く評価をしながら、それから、それぞれの5つの地域を、その特徴を分析しながら、こういうまちをつくっていかうというこの基本計画についても大変高く評価をしたいと思います。

そういう中で何点か、利便性だとか、あるいは安心、安全なまちだとか、江戸川区の特徴である豊かな自然に恵まれた、この自然というものを高めていかうとか、にぎわいだとかいろいろありますが、その中で、実は、今の新聞に、専門は小暮先生なんですけれども、世界で、今の近代的なこの社会の中で、11億人が患う疾病といいますか、その原因になっている社会現象というのは肥満だと言われているんです。これはアメリカの方が「地球を読む」という中に書かれているんです。例えばアメリカでは成人の61%が体重過剰だとか、あるいは英国では半分、51%ぐらいの人が体重過剰だとか、いろいろなそういう分析をして、それがひいては全部疾病につながっていくということを考えますと、これから高齢化社会に入っていくわけなんです。そこにやっぱり健康とまちづくりというか。先ほどバリアフリーの話がありました、これは別に問題ないです。しかし健康な人ができるだけ体を動かせるような、そしてまち全体の中で自然に健康づくりが行えるような、こんなようなものが。確かに先ほどウォーキングするときのことも書いてありましたが、そうじゃなくて毎日の生活の中で、どちらかという例えば車で行くのを自転車にするとか、そのためには自転車のそういう整備というか、自転車をきちんと預かる環境整備が必要になってきます。こういうようなこと、健康とまちづくりというものの考え方、それが1つです。

もう一つ、やっぱり理想のまちづくりの中で、区民がそこに学ぶことだとか、これは何かこの前生きがいとかいろいろな話がありましたが、スポーツを自由にいつでもできるとか、あるいは生きがいのあるいろいろな活動ができるとかいう区民施設の充実というのが江戸川区の場合はおかげさまで非常に充実をしております。しかしこれから20年後の先を読んだときに、今日は体育会の理事長もおられますけれども、例えばスポーツ施設にしても、今はこういう経済状態、財政状態でとんでもない話なんですけれども、将来のことを考えますと、そういうような将来の夢というとおかしいですけれども、将来像も考えていく必要があるんじゃないかなと思います。

それからちょっと具体的なお話をさせていただきます。1つは江戸川区の特徴であります、先ほどもありましたけれども自然環境に河川だとか海だとかに面した、囲まれた、しかも公園も多い。そういう努力もされてきて、一番これから期待されるのは篠崎公園の整備なんです。これについてももうちょっと積極的に取り組んでいただく。ここにもちゃんと書いてありますけれども、是非お願いをしたいと思います。

それから利便性の中での交通と道路の整備ですけれども、道路整備の中で1つだけ篠崎公園と関係あるものですからちょっとお聞きしたいと思うんです。北側のほうの補助288号線、これについては今日いただいた地図にも、またこちらのほう、篠崎駅北側の20年後の整備完成を目指す路線という形になっていますが、これについては私も前に議会の中で提案をして、こういうような幹線道路がクランク状態のような形というのは将来の百年の大計を考えたら、しかも篠崎地域全体、この東部地域全体のまさに幹線道路になるわけですから、これはできるだけ真っすぐにして公園を迂回するような形のご検討をいただけないかということで、恐らくそういうような提言もさせていただいていますが、それを含めて、今、ご検討いただいているんじゃないかと思うんです。しかしこれは都市計画変更をしなければなりませんからそう簡単に、そういう変更の手続きもそうでしょうけれども、もう何十年も住民の方々はここを通るものだと認識しているわけです。それを新たにやるとなると、やはり10年、20年、住民の理解を得なきゃいけませんし。ただ買収という形でできるかどうか非常に難しい問題もあると思うんです。この辺についてお考えがありましたらお聞かせをいただきたいと思います。以上です。

【松下会長】

はい、副主幹。

【白井副主幹】

まず1点目のご質問でございます。ほんとうに健康づくりということでございますが、ここではいろんな面がありますが、自動車から自転車へということで、環境の面もございますけれども、それは非常に健康にもいいというようなことも考えて自転車専用レーンだとか、そのようなことを書かせていただいております。それからここでも多々わたって書かせていただいておりますし、また健康というセクションがございましたが書かせていただきました。あそこでもスポーツ、レクリエーションを身近なところでできるように健康の道の整備だとか公園などの整備というようなことで、ほんとうに自然にまちを楽しんでいたら、それが運動になったというような考えのもとにこの計画全体を貫かせていただいておりますので、今、委員がおっしゃったようなこととまさにマッチしていると考えているところでございます。そういうのはいろんなところで書かせていただいていると考えております。

区民施設の充実でございますが、そういう意味ではまち全体として、これはどこに、まあ屋内施設ということなんでしょうけれども、まち全体としてスポーツや運動に親しめる場所にしていこうというような考えでございます。またその1つの区民施設をどう機能を充実していくとか改修していくかというのは、これは基本計画よりはもっと実施計画的な、また予算的なレベルの話になってこうと考えているところでございます。

3番、篠崎公園の整備と補助288号線のことに関しましては都市開発部のほうからお答えさせていただきます。

【松下会長】

はい、都市開発課長。

【秋元都市計画課長】

篠崎公園の整備につきましては、今回の長期計画の中にも4ページのところで書かせていただいております。委員の皆様ご存じのとおり現在は柴又街道沿い、補助143号線沿いをまず中心といたしまして4.3ヘクタールほど、今、整備してございます。それを引き続き東京都のほうに整備を促進するように要請してまいりたいと思いますが、今回の長期計画でもかなり篠崎公園につきましては詳しく周辺の道路整備とか市街地整備の計画との整合を図り、事業の実施時期とか施設内容等についての具体的な見通しを明らかにするように都のほうに働きかけていくように現在考えてございます。

もう1点の補助288号線につきましては、現在江戸川のところでスーパー堤防の整備構想がございまして、具体的に国土交通省としましても都立公園の部分についてスーパー堤防化にかなり興味を示しておりまして、それについて市街地の整備とスーパー堤防の整備とを一体として進んでいこうという形になってございます。今後その全体的な市街地の整備とスーパー堤防の整備構想とをあわせる中で、この補助288号線の路線等についても具体的な姿を出していかなければいけないと考えてございます。今回の長期計画では一応篠崎公園の一体性や道路整備を考慮に入れた計画路線の見直しを検討というような形で記述させていただいておりますが、今後そのような形でできるだけそれを、現在都市計画決定されている区民の皆さんがいらっしゃいますので、速やかな形でそれが進められますように、やはり国、都に要請してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【松下会長】

よろしいですか。
はい、藤居委員。

【藤居委員】

多くの意見が出まして、私はこのまちづくりのところで、全体の基本計画の中のいわばハード的な計画で骨格となるものなので、そのことを生かしていくためのさまざまな相対的な要素が今回この中には盛り込まれているという全体の印象なんです。その中でもう少し、この中で重視されている例えば水と緑のことですとか、安全、安心というようなキーワードをさらに全体のコンセプトの中にきちんと明記するような、それも端的にあらわすような表現が最初に必要なのかなということを感じました。非常に環境を優先させるまちづくりということですから、防災、安心ということを重要視しているということが、この全体の中にあらわれているので、そういった意味でも今のようなことをひとつ感じたので、是非検討していただけたらと思います。

それから中に「まちづくり基本条例」というものが3ページのところに出てくるんですけども、これは、この計画を生かしていく、実現させていくためには、この中に書かれている区民も事業者も区と一緒にこれを実現させていくための基本条例になるのかな、基本的な区の姿勢になるのかなと思うんですが、その点についてちょっとご意見をいただきたいと思うんです。例えばそういう条例を定めることで、さらにこのまちづくりの部分に区民も参加しながらより近づくんだというようなことになるのかなと思っているものですから、その辺をちょっとお尋ねしたいと思います。

さまざまな環境、残された環境をさらに都市の中で生かしていくためにということですから、今ある地球規模というかヒートアイランド現象のような環境問題を解決するとか、駅周辺などの駐輪・駐車対策もしなきゃいけないというような対策についてもここは書かれているので、この基本条例の中に入るのかどうか分かりませんが、これを区民も一緒になって実現していくためには、どういうことがこの中で重要なのかということをはっきり示していただきたいということと、ある程度のやはり規制も必要になってくるのかなと思うんですが、特に駐輪・駐車については江戸川区として積極的に規制するような条例などが必要だと思っていましたので、そういったものも、この「まちづくり基本条例」の中に盛り込まれていくのかというような、その辺の内容が少しわかりづらかったので、この条例についてはお考えがもしありましたら、是非お聞かせいただきたいと思います。

最後に、今、何回も繰り返すような形になるんですけども、例えば具体的に絵にしてみるとか。すごくこれは全体を網羅しているので、これができたらとても立派な江戸川区、10年後、20年後は明るい江戸川区という印象なんですけれども、例えば具体的な地図に落とすと、屋上緑化とか緑がどんどん増えていくというようなことは、例えば区民がやるときにはどういうことができるのか、どういうことをやったらいいのか、公共住宅ですとかたくさんあるマンション、そういう集合住宅のほうでは、屋上緑化を積極的に進めるのにはどんなことをやったらいいのかというような、そういうことを是非、これは次の実施計画になるかもしれませんが、示していくことで生かされていくものだと思うので、すごく漠然とした言い方になってしまいましたけれども、お答えいただける部分がありましたらよろしくお願いいたします。

【松下会長】

はい、副主幹。

【白井副主幹】

1番、最初のご提案につきましては参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

それから「まちづくり基本条例」ですが、これはここに書かせていただいたとおり、まさに区民発意のまちづくりへの1つの方策というような形で、今、考えております。ただ基本計画にそれを書くことがなじむのかどうか。条例ですから、条例というものの検討と書くことがなじむのかどうかもあるとあわせて、中身ももちろんそんな決まっているものでもございませんので、これからまだ検討させていただきたいと思っているものでございます。

3番につきましては、当然これから本を、基本計画、長期計画というのは考えておりますので、そのときにビジュアル化して皆さんだれが見てもわかるような、よりイメージをつかめるような形にしていきたいと思います。

最後に、今、藤居委員が、じゃあ区民の方でどういうことが例えばできるでしょうかということなんです。1つの例といたしましては、ここで9ページに「水と緑にあふれる都市環境の充実」で、「区民主体の環境づくり」ということで、ちょっと読まさせていただきますと、「花と緑とともに生きましょう」をスローガンとして、家や事業所などのベランダや玄関先などを花や緑で飾る「みんなの家に花いっぱい運動(仮称)」を推進し、ということを書かせていただきました。これはどういうことかといいますと、つまり、今、まちを見ますと、ヨーロッパなんかに行くとおわかりのとおり、ベランダに皆さん花を飾っていらっしゃいます。歩いている方が家を見ても、花でずっと囲まれているわけです、まちが。あれは行政としては、じゃあ家に花を置いてくださいということまでは、これはできませんので、こういうようなことで皆さんで家に花を飾っていきましょう。見ても非常にきれいなまちづくりになってくるといえるのは、これは1つの区民運動だと考えておまして、それをこの基本計画で明らかにして、皆さんやりませんかということをお話ししていきたいと思っております。こういう形で区民の皆さんと一体になって、例えばこれは花と緑のまちづくりの例でございますが、このようなことに参加いただきたい、活動いただきたいと思っているところでございます。1つの例でございますが、この中にこういうことも書いてございますので参考としてお話しさせていただきました。

【松下会長】

よろしいですね。

はい、棚橋委員。

【棚橋委員】

私は、今、西葛西に実は住んでるんです。西葛西に駐輪場をつくっていただいて大変ありがたいなと思っておるんですけれども、できる前は、西葛西の駅はこれですごく違法駐輪というんですか、なくなるんだと思っていたんです。ところが、今現在、住んでいて、それほどなくなった感じがしないんです。あんまり現実変わってないんじゃないかなという意識があるんです。つくる前の違法な駐輪というんですか、その数と、つくった後の今の現状の数と、どのぐらいの差があるのかということ。それから1回だけ私、実は利用しようと思ったことがあるんです。1回だけ入ったんですけれども、銀行へ行くのに10分ぐらい停めようと思って入ったら1回100円だと言われて、100円はもったいないと思ってやめちゃったんです。どういう人が利用しているのか、それから今の駐輪場の使用状況のことと、もっと効率的な使い方ができるんじゃないかなという気がするんです。現状は、全然入ったことがありませんので、どういうふうになっているか全然私にはわからないんですけれども、その辺を教えてください。

もう一つ、できれば次につくるときは、もっと大きな駐輪場が必要なんじゃないかなという気がするん

で、そのことは計画の中に入れていただきたいと思います。

【松下会長】

はい、土木部長。

【倉嶋土木部長】

西葛西の駅前でございますけれども、南北に地下駐輪場がございます。両方合わせて4,500台が収容できるようになっておりまして、少なくとも平均で95%以上が毎日使われております。もちろん一時的に来て100円をいただいて、定期でない使用方法もございますけれども、それもほんとうに満杯状態というようなことになっておりまして、少なくとも地下に入っている部分は表面に出てきていないわけでございますので、その分は十分使われているかなと思います。

しかしながら、まだつくってそう年数はたっていないとはいいいながらも、駅の乗降客が増えておりまして、自転車に乗ってこられる方が増えてきているということも事実でございます。そういう意味で定期的に撤去等を行っているわけでございますけれども、なかなか皆さんが、きれいになった、これで十分大丈夫だねと、こういうような状況になっていないということの承知はしております。しかしながら西葛西につきましては当面、今まだどこかにつくるといような計画はございませんので、できるだけ撤去回数を増やして違法駐輪についてはできるだけ排除していきたいと思っております。

【松下会長】

はい、棚橋委員。

【棚橋委員】

すいません、長くなっちゃって。そうであるならば、もうちょっと駐輪場を利用する方たちを限定するというか、条例等でこの地域の方は使ってください、この地域の方はできるだけ歩いてくださいというふうなものがあってもいいんじゃないかなという気がするんです。それと5分、10分であればいいですよというふうな地域もあってもいいのかなという気がするんですけれども、いかがでしょうか。

【松下会長】

はい、土木部長。

【倉嶋土木部長】

5分、10分というのは、1台1台に人間が張りついているわけじゃございませんので、なかなかそこまでは把握できない。したがって今撤去方法については、ある一定時間に一斉に置いてあるものに張りまして、1時間様子を見て、まだ置いてあるものについて撤去しているというのが実態です。それから無制限に乗ってこられますととても収容し切れないということもございまして、駅から半径700メートル以内の方はご利用しないでくださいということもPRをしております、登録、定期的に利用される方は少なくとも半径700メートル以遠の方に制限しております。それでも今のあの状況だということでございます。

【松下会長】

よろしいですか。

はい、平田委員。

【平田委員】

ちょっとお伺いしたいんですけれども、4ページのところに「木造密集市街地の改善」というところがございますけれども、この中で防災性及び居住環境の向上を図るために、古い木造の住宅を壊して共同化や敷地を買い増しすることによって建てかえを行いますということが書いてあるんですが、この前にもちょっとお話を伺わせていただいたんですけれども、例えばこの木造の密集地を壊して新しく共同の大きい、いわゆるマンションといいますかそういう形に、高層住宅につくりかえる場合に、今、建ぺい率というのは私もあまりはっきりどの辺がどうなっているかわからないんですけれども、非常に何か私どもの会社のところでは、何といいますかビルでも15メートルぐらいしかできなくなってきた。今までは10メートルの範囲内でしか建てられないということを聞いておるんですけれども、その辺の緩和ができていいのかと。ただ駅前周辺にのみ、あるいは工業地帯のところにのみ、もっと高い住宅が建てられるというようになっているのかどうか。私は将来に向かってやはり、できればマンション、いわゆる高層住宅を建てた中で、そしてその中側はできるだけ空間をつくり、緑の場所をつくると。緑のいわゆる憩いの場所をつくるというのがこれからの日本のまちのあり方だなという気がするんです。

これは実は大分前ですけれども、東京都の山手線の中を全部、これは非常に極端な話ですけれども、家を将来は高層住宅を建てて、真ん中は全部空間にしようかという話が出てきたと。これは森ビルの社長さんから出てきた話で、半分自分の金もうけのためにしゃべったんじゃないかなというような気がするんですけれども。まあそれでも、やはり東京都知事は非常にいい案だということで、即賛成とはいかないんですけれども、非常にいいことだという、将来検討しようということを言っておられたように私も記憶しているんです。江戸川区もできるだけ今度は、壊して新しく建てる場合にはできるだけ高層にして、そしてその中の空間を少しでもつくる。これが防災に役立つ、緑に役立つということになるんじゃないかなという気がするんです。

なかなか1戸の家を今度は集合住宅にするというのは非常にいろいろな弊害がございますけれども、抵抗もがございますけれども、そういう建ぺい率について将来幾らか緩和をしようとか、あるいはもっと厳しくするんだという、その辺のお考えをお持ちであるかどうか、ちょっとお聞きしたいんです。

【松下会長】

はい、都市開発部長。

【浅川都市開発部長】

木造密集市街地を壊してしまって高層にみんなしていこうかというような感覚では考えていません。ただ密集しているところはやはり敷地いっぱいいっぱいに使って燃えやすい建物が建っているという、こういう現状でございますので、できるだけある程度高度利用していただきながら空間をつくっていただいて、空間をつくった分だけ高度に使ってもらうというような考え方はとっていききたいと思いますけれども、このことはむやみに高くなりますと、住宅地の場合には高層で住んだときにいろいろ課題があるということもありますので、木造密集市街地を壊して高層住宅を建てるんだという方向では考えていません。ただ空間地をつくっていきこうとは考えていきたい。そのことをやりやすくするためにはどうするかということがいろいろ議論が出てきますので、今ある規制等について一定の条件が整えば緩和するというようなことも、先々制度的には工夫もしていくということが必要ではないかなと。あんまり一律の答えは出てこないんですけれども、いずれにしても、いわゆる燃えにくい環境、地震が来たときに生命をなくしてしまうほ

どに大きな被害に至らないような空間をつくっていこう、道路も広げていきましょう、公園も配置していきましょうというふうな方向で考えていきたいということをこの中には大分書き込んでいます。そんなことでございます。

【松下会長】

よろしいですか。

ほかにございませんか。

それではよろしいですね。それではないようでございますので、審議会の日程について事務局のほうから、副主幹。

【白井副主幹】

ありがとうございました。それでは次回でございますが、今度は2月27日になります。水曜日でございますが、今度は財政のフレーム、基本計画の推進ということで執行体制等につきまして、またご審議いただきたいと思います。会場はこの区民ホールのいつもの蓬萊の間でございます。1時半からでございますのでよろしくお願い申し上げます。

【松下会長】

それでは本日はこれをもちまして閉会いたします。どうもありがとうございました。

了